

白老町都市計画審議会（第3回）会議要旨

日 時：令和4年10月17日（月）13：00～14：00

場 所：白老町役場 第1委員会室

出席者：松田会長、清水副会長、吉谷委員、広地委員、熊谷委員、吉村委員、
西村委員、井澤委員、鈴木委員 計9名

事務局：富川課長、温井主幹、坂本主任 計3名

会議要旨：

1 議事

(1) 白老町立地適正化計画（案）について

○ 事務局から説明

○ 質疑・意見

【松田会長】

- ・現在、町立病院の屋上を津波一時避難場所として整備を進めているが、局所的な対策ではなく、町全体で考えていくべきである。町民の命を守ることは、何よりも優先され、町全体で等しく対応されなければならない。また、老朽化した公共施設の更新に、今後、多額の費用が見込まれているが、これを理由に対策できないとはならない。

国は、津波重点地域となる市町村に対し、盛土等の避難施設の整備に係る費用を重点的に支援するとしている。こうしたものを上手に活用しながら、町民の安全・安心のため、早急な対応を望む。

【清水副会長】

- ・現在、町立病院の改築を進めているが、災害拠点となる役場の改築も、各地区の津波対策とあわせて検討していかなければならない。国の予算を活用し積極的に進めてほしい。

【熊谷委員】

- ・移住者が町内で居住先を探すには大変労力がかかる。移住対策として町は空家問題をどう考えているのか、早急に対応すべきである。また、移住対策への町の姿勢が弱いように感じる。人口増につなげるためにも早く手を打つべきである。
- ・人口減が進む中、社台から虎杖浜まで地区を等しく維持していくことは可能なのか？
財政面を考えると一極集中にならざるを得ないと考える。
→ 人口減少対策を強化・継続しながら、各地区の人口を維持し、集落を存続させるよう努力していきます。また、JR駅の存続のためにも、本計画を推進させ、駅の利用を増やしていきたいと考えています。

【広地委員】

- ・各地区に津波避難タワーを1箇所ずつ整備しても、カバーできないエリアが生じ、不足するものと考えている。縮充の考え方のもと、民間施設の活用も視野に入れながら、対策を進めてほしい。
- ・この計画を策定すると国から手厚い支援が受けられる。今後はこの計画をもとに、国の支援をうまく活用し、強靱なまちづくりを進めていただきたい。

【吉村委員】

- ・役場を町の中心である萩野地区にもっていき、津波避難施設と兼用すれば整備箇所が少なくなるものとする。また、高齢者が気楽に楽しめる場所があると、皆、住み続けていただけたらと思う。

【西村委員】

- ・町民説明会ではどのような意見が出たのか？
 - 誘導区域内に居住を誘導するための施策や津波防災に関わる意見が多数寄せられました。本計画の基本的な方針については、概ね理解を得られたものと感じています。
- ・子育て世代を誘致するためには、空家、公共交通、防災などの対策が必要と考える。住むところ、移動する手段、災害時の安心感など、若い親御さんが移住しやすい環境づくりが求められる。

【井澤委員】

- ・公共交通の充実に係る施策の中で、ローケーションシステムやMaaS等の検討が掲げられているが、今後、導入する考えなのか？、移住や観光面で時刻表のデジタル化は有効と考える。前向きに検討いただきたい。

【事務局より】

- ・次回開催は11月上旬を予定しており、議題は立地適正化計画の答申となります。